

swallow park

Newspaper

Vol.023



音に言葉

Photo& Text: トウキョー

音楽ライターのおオキサエリさんにお話を伺いました。2000年代前半、サエリンゴ名義のOops [Link] のディスクレビューで好きなCDがかぶっていて、よく投稿を読んでいた。数年ぶりに記事を拝見したのは、サエリさんが編集長をしているメルマガ『mixture! mail magazine』でのLotus Loungeへのインタビューを検索でみつけたつい数日前。「よくぞこのバンドを紹介してくれた! 何年たっても好み合うなあ」と嬉しくなって声をかけました。

◆ブログやAmazonやMixiなどレビューの場所が選択できる中で、最もシンプルなメルマガを選んだ訳は?

mixture! mail magazine [Link] では「音楽雑誌より手軽に、ブログより身近に」をモットーに運営しています。読者になっていただかないと見られない狭い範囲で、音楽雑誌を定期購読者へ送るような気持ちで毎号作っています。メールマガジンドと受け取る楽しみもありますね。

◆「更新された」でなく「今届いた!」みたいなのがいいですね。音楽について文章を書きはじめて頃と今で、変わったことと変わらないことは?

書き始めたのは確か二十歳頃。今よりもがむしゃらに書いていた気がします。それからもう5年以上の月日が経過しているわけですが、初めて働いたインディーズレーベルで、ライターの先輩と呼ぶべき方に出会い、チェックやアドバイスを受け、書くということに対してプロ意識を持ちました。記名原稿の仕事で、自分の名前が入ることにより責任感も芽生え、自分の文章に対して客観性も持てました。ずっと忘れずにいたいのは、学生の頃に「このCD良いから聴いてみて」と友達に貸していたときの感覚。純粋に自分が良いと思ったものを人に薦めたいという気持ちはいつまでも大切に持ち続けていきたいですね。

◆音楽ライターで、良かった体験を教えてください。

専門誌『MUSIC MAGAZINE』に載せてもらえたこと。オフアを頂いたのですが今でも夢のように思います。とて



も嬉しい出来事でした。あと様々なアーティストと交流が出来たこと。それがオンライン上のみであったとしてもとても刺激になりましたし、何とんでも自分が書いたレビューを、気に入ってもらえた時にはとても嬉しいです。

◆評論とは異質の、アフィリエイトのおすすめ文の増殖など、近年変化してゆくネット上の商品解説の在り方に、考えることなどありますか?

良いと思ったものを紹介したい感覚が常にあるだけで、特に深くそういったことを意識したことはないです。音楽のことだけでなく本やDVDも扱う複合レビューサイト khipu [Link] にアカウントを持つことにより、より情報に詳しい人が見てくれるような気がします。音楽もネット配信の時代になって、ネット上ではCDレビューが誰でも気軽に書ける世の中にはなっていると思います。

◆気軽に書き込めるものの、データのみでブックレット無しとか、10曲通して聞かないとか、アルバムという概念が薄れてますよね。ダウンロード販売とどうつきあっていますか?

iTunes Music Store を多々利用しています。アルバムを丸々1枚ではなく、好きな曲のみを厳選しています。金銭的にラクになる面では良いのかもしれませんが、1曲で買った音楽にはレビューをしないことが多いです。

◆そこは切り捨てているんですね。インディーズのアーティストを見つけて紹介するのはどんな想いですか?

基本は自分の耳が今求めている音を中心にインタビュー対象を決めるということ。音源を試聴できるサイトを利用して、そこから毎月気になったアーティストを選出していました。たまたまそれが新しくまだ知られていないアーティストだったことが多いだけのような気がします。

◆試聴がこれだけカタログ化された今、好みの音を見つかる人は、広告露出に左右されませんか。一般リスナーは、好きなレビューをチェックするのが、好みの刺激を外さない賢い手段です。いろんな場所へ投稿されていますが、まとめサイトはありますか?

個人サイト『noise from the basement』[Link] にこれまでの活動を載せていますので気になるタイトルがあったら読んでみてください。ライターとしてはバンドのレビューからライナーノーツなど色々やっています。お仕事は随時募集しておりますので、気になられた方はお気軽にコンタクトを取っていただけたら幸いです。

◆エレクトロユニットやらないんですか? 2003年当時のサエリさんのファーストアルバムを私は持ってるんですよ!

これまたビックリしております(笑)。ユニットやりたいと思っているものの、良いトラックメイカーに巡りあえていないんです。これを見て興味を持たれた方はご一報ください。当方ヴォーカルとキーボードとドラムが少々、ヘタウマ、アヴァンギャルド(笑)な感じで! 王道なものよりも、既存のエレクトロの枠にとらわれない新しいものが出来ればいいなあと思っています。面白い出会いがあるといいですね。

サエリさんありがとうございました。ネットの検索はまだまだ文字ベース。だからこそ、宣伝広告のテキスト量に負けないくらい、「このサウンド、これだから良いよ!」って音楽を言葉にする純粋なテキストが必要なんです。